

教職大学院年報への執筆要領

書式

(1) 共通様式

- ① A4判 モノクロを基本
- ② 余白 上 25 mm 下 35mm 左右 20mm
- ③ 1行 46字×42行；MS明朝相当 10.5ポイントで本文記入
- ④ ページ番号は組版時に挿入を基本（原稿では挿入しない）
- ⑤ 句読点は「、」と「。」を使用する。
- ⑥ 数字の表記：1桁は全角、2桁以上は半角で表記
- ⑦ その他詳細についてはテンプレートを参照

(2) 課題研究の報告

- ① ヘッダーに 10ポイントゴシック（MSゴシック相当）で「課題研究中間報告」か「課題研究最終報告」と記入
- ② 中間報告は1人4ページ以内
- ③ 最終報告は1人8ページ以内
- ④ 院生同士でページの再配分は可能とする
- ⑤ 文献欄は「社会学評論スタイルガイド（日本社会学会）」の最新版準拠。以下に一部抜粋する（詳細は「社会学評論スタイルガイド（日本社会学会）」の最新版を参照のこと）
 - ・ 本文中で言及もしくは引用した文献は、漏れのないようにすべてを文献リストに記載しなければならない。ぎゃくに、文献リストにあげられた文献は、かならず本文中に対応する文献注がなければならない。
 - ・ 文献は、[注]の後に、やはり1行あけて、[文献]という見出しの下に、和文の文献も欧文の文献も含めてすべての文献を、著者または編者（共著・共編書の場合は筆頭者）の姓のアルファベット順にリストアップする。
 - ・ ひとつの文献にかんする書誌情報を記載しおえるまでは、途中で改行することなく、続けて入力すること。ひとつの文献の記載が複数行にわたるときは、2行目以降は全角で2文字分下げる。上記の形式を守れるのであれば、ワープロソフトのインデント機能等を使用してもかまわない。
 - ・ (著書の場合)
 - ・ 著者名，出版年，『タイトル——サブタイトル』出版社名。
 - ・ 編者名編，出版年，『タイトル』出版社名。
 - ・ 著者名，出版年，「論文のタイトル」編者名編『本のタイトル』出版社名，論文の初ページ-終ページ。
 - ・ 原典の書誌情報。（訳者名訳，翻訳の出版年，「翻訳論文のタイトル」所収書の編者名編『所収書のタイトル』出版社名，翻訳論文の初ページ-終ページ。）
 - ・ 編集機関名，出版年，『タイトル』発行元。
 - ・ 例
 - 宮島喬・梶田孝道・伊藤るり，1985，『先進社会のジレンマ』有斐閣。
 - 高坂健次・厚東洋輔編，1998，『講座社会学 1 理論と方法』東京大学出版会。
 - 船橋晴俊，1998，「環境問題の未来と社会変動——社会の自己破壊性と自己組織性」船橋晴俊・飯島伸子編『講座社会学 12 環境』東京大学出版会，191-224
 - Fromm, Erich, 1941, *Escape from Freedom*, New York: Reinehart and Winston. (日高六郎訳，1951，『自由からの逃走』東京創元社。)
 - 内閣府国民生活局，2009，『平成20年版国民生活白書』。
 - (雑誌等の場合)
 - ・ 著者名，出版年，「論文のタイトル」『雑誌名』巻(号)：論文の初ページ-終ページ。
 - ・ 例
 - 佐藤嘉倫，1998，「合理的選択理論批判の論理構造とその問題点」『社会学評論』49(2)：188-205。

(インターネット上の情報)

- ・ 著者名, 最終更新年, 「タイトル」, ウェブサイト名*, (取得日, URL).
- ・ 例

日本社会学会, 2006, 「日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針」, 日本社会学会ホームページ, (2009年2月2日取得, <http://jss-sociology.org/about/shishin.pdf>).

- 付則
1. 本執筆要領は2017年6月20日から施行する。
 2. 本執筆要領は2018年9月19日から一部改正する。
 3. 本執筆要領は2020年12月16日から一部改正する (ただし2021年3月修了生は従前の通りとする)。